

0004

1167

戦闘詳報

駆逐艦谷風(昭和十八年七月夕霧灣津海戦)

戦時日誌

駆逐艦蓮(昭和二十年四月)

第七十六号海防艦(昭和二十年三四月)

第二復員局残務處理部

52

5000  
8911

相良大尉

軍極秘

昭和十八年七月七日

七號  
機密  
第  
三  
〇  
號

驅逐艦谷風戦闘詳報 第壹號

昭和十八年七月六日  
昭  
和  
十  
八  
年  
七  
月  
六  
日  
ク  
ラ  
「  
湾  
沖  
夜  
戦

驅逐艦谷風

19  
20

000 1

目次

一 形勢 (別紙第二)

二 計画

三 経過

四 令達報告

五 戦果 (一) 戦果 (二) 被害

六 功績

七 参考

(一) 戦訓並所見

(二) 行動圖合戦圖 (別紙第二)

(三) 兵器消耗調査表

(四) 燃料消費調査表

(五) 故障欠損調査表

駆逐艦谷風戦闘詳報第壹號

昭和十八年七月五日  
至同 年七月六日  
クワラ沖夜戦

一 形勢

六月三十日ロンドバト方面ニ反攻上陸セル敵ハ益々兵力ノ増強ヲ  
圖ルト共ニコンダダ攻略ノ企圖ヲ以テ七月四日夜半バイコロ島  
方面ニ海上兵力支援下ニ上陸ヲ強行セントセルモ友軍反撃  
ニ會ヒ撃退セラレタリ。

増援部隊ハ外南洋部隊電令作第三三六號ニ基キコロバン  
ガラ方面増援陸軍部隊並ニ資材物件ノ緊急輸送ニ  
任ズ

二 計画

機密増援部隊命令作第九號（別紙第一）通り。

三 經過

驅逐艦谷風、外南洋部隊増援部隊（指揮官以司令官）ニ屬シ、コロンバンガラ方面緊急輸送作戰支援隊トシテ警戒支援ニ從事中

主 要 記 事

月 日 時 刻  
七 五 一七三六

コロンバンガラ島増援陸軍部隊ニ資材物件輸送爲メ増援部隊指揮官指揮下トシテトランド北口出撃

砲戰魚雷戰用意

新月左正横五〇〇米ニ敵水艦艇ヲ探知ス

戰半左砲戰（針路一八〇度）

反転針路〇度

怪シキ艦影ヲ右四十度約七〇〇米ニ発見

二〇三七  
二三〇六  
二三一八  
二三四六

七 五	二三四八 二三四九	新月三ノ右四ノ度ニ怪シク艦影見ユ 怪シク艦影ハ敵乙巡及駆逐艦同航スモ ノ如シ 右魚雷隊同航 針路三三〇度速力三ノ節トス 敵巡洋艦ニ駆逐艦ニ右五ノ度五〇〇米 ニ確認ス
七 六	二三五六五 二三五七 二三五九五 〇〇〇ニ	敵發砲 新月敵彈命中 打方婦ム 発射始ム(発射雷数ハ距離四〇〇米 方位角九五度 敵速三ノ節) 煤煙幕展開 雷撃三ノ敵乙巡一隻 駆逐艦乙巡一隻 突スルヲ認ム

000三	涼風小火災ヲ起シタルヲ認め
000三五	前甲板ニ敵弾(三月弾)命中
000六	新月艦故障 取舵ニ回避ス
	最大戦速 魚雷次発装填ノタメ一時
	離脱 涼風ニ續航ス
00一	新月ヨリ航速力ニ十六節
00二	煙幕止ム
00二五	魚雷次発装填完了ニ至「コロバガラ
	島北方海面ヲ行動速力ニ十四節
0一	次発装填完了
0一	反撃ニ再ビ戦場ニ向フ速力ニ十節
0一	新場附近ニ敵艦ヲ見シ新月見
0一五八	當ニズ友艦ニ黎明時ノ敵艦爆行動

0011 1174

七

六

〇  
七  
〇

国外ニ出ル如ク行動ス速カニ一符  
ンヨートランドヨ着







2211 5100

谷風 (三三六)	涼風 (三三五)	谷風 (三二九)	涼風 (三二七)	涼風 (一四)	涼風 (三三六)	新月 (三三四)	新月 (三五八)	新月 (三五四)	新月 (三五三)
涼風	ZOB SNB NTF 旗艦	涼風	谷風	谷風	SNB NTF 旗艦	支援隊	支援隊	支援隊	支援隊

運BF(三三九)發動  
右七十度敵駆逐隊見ユ  
右魚雷戰同航  
打方始メ  
我舵故障  
機密第。六。六。六番電  
新月舵故障  
我最大戰速 續行セヨ  
現有魚雷數知セヨ  
現有魚雷數八本  
機密第。六。三。五番電  
我用心戰場三向？  
我次發裝填出來ガ反転待レ度

電話 電信 同 同 電話 電信 同 同 同 同 電話

000 8

谷風 (一五)	涼風 (二三)	涼風 (二〇)	涼風 (一五)	谷風 (一〇)	谷風 (一〇)	涼風 (四九)	涼風 (四九)	谷風 (四三)	谷風 (四二)	涼風 (四〇)	涼風 (三九)
涼風	谷風	谷風	谷風	涼風	涼風	谷風	涼風	涼風	谷風	谷風	谷風

11月28日 司令

次發裝填終了知レセ  
 我現有臭雷數四本面飛反撃ス  
 我前部廊室浸水  
 我各聯管ニ發死裝填  
 損傷大ニ便宜避退セ  
 機密第〇六〇四六番電  
 出來得六新月狀ニ調査度  
 我前部相當被言リ應急修補後其艦續行ス  
 我貴艦續行ス  
 我第一戰速 我前部損傷ノ模様  
 我反松ニ言テ茲新月夜子見ニ行ク貴艦單獨  
 針路速力知ラレ度

同同同同同 電 同同同同同 電信

6211 9T00

京風  
京風  
京風

谷風  
谷風  
谷風

第一戰速  
我面飛三反転歸投ス針路五度速カニ  
〇二〇〇ニ至ルニ狀況解テバ反転避退ス

同 同 電話

終

五. 戰果

(1) 戰果

敵乙級巡洋艦一隻

轟沈

同

右

一隻

炎上

(擊沈概不確實)

(2) 被害

被彈(盲彈)一ヨリ揚錨機室、米麥庫等浸水シ

揚錨機使用不可能トナル

六. 功績

乗員一同勇戦善闘シ遺憾ナク其ノ任務ヲ達成

セルモノト認ム

七、参考  
昭和十年七月廿九夜半、  
一、(一) 砲戰

一、(一) 砲戰  
一、(一) 砲戰

(A) 巨砲射撃  
敵巡洋艦(ブルック型)判定  
射撃手射匠約六十米に於て無照射其初弾光頭艦

(一) 敵巡洋艦(ブルック型)判定  
射撃手射匠約六十米に於て無照射其初弾光頭艦

(二) 敵巡洋艦(ブルック型)判定  
射撃手射匠約六十米に於て無照射其初弾光頭艦

電波探信儀、周縁射撃指揮装置ヲ裝備測距射法  
ヲ實施セルモト推定セラル

但し本射法は飛行時、肉係上六十米以下に精度良好トシテハ  
數時、夜戦に於て敵側射撃手ニ鏗ミ、確實ト見ルヲ得ベシ

(B) 敵砲彈は音彈多ク涼風被弾ニ谷風一テリモ新月外ハ比較的被  
撃シテリト云々其砲彈は音彈多クカリニキヨル

(C) 照射射撃手ハ戒断在ラ照露スルヲ以テ敵不利ト認ム

① 表与現有兵器ヲ以テ射距離以内敵ヲ見ル場合互記事項

ハ應急射策上ニ實施シ要アリト認ム

② 敵電探安否ニ先キ照射射撃ヲ開始シ射撃効果ヲ察知シ絶對必

要トスルモ奔射前照射距離射撃ヲ得ル上充分考慮ヲ要ス

③ 連射照明彈、供給ヲ要ス

④ 敵我照射距離外ヨリ射撃スル場合、百頭觀測ノ一キ段トシテ

三式彈及通常對空彈使用ノ應急手段アルモ照天ト信管種

時、劇行上實施ニ相當ノ難ク

⑤ 無照射射撃ノ場合ハ近距離ヲ觀測射撃彈修正ヲ指導スル事肝

二) 魚雷戰

① 肉迫艦艇數十發射、録別アルト論ヲ俟タザル處アルモ之ガ實施ニ関シテ

ハ今次ノ如ク高地夜戰ニ於テハ其ノ基礎、如何ニシテ未ダ我々射撃手

力ヲ發揮セザルニ全滅態運ニ墮ルハ算大ニ計テ所謂七分三分ノ兼

合ニ關シテ左記ヲ考慮シ深甚ニ注意心ヲ要ス



(B) 最近夜戦のソロモン方面局地夜戦の研究セラルル。當り射撃の圖ヨリ見れば射撃の火分以テ直に肉迫攻撃の精神力不足ト謂フ。合計

一 今次夜戦の驅逐隊自体が主隊兼補助部隊ニシテ戦果を揚揚遍に駆逐隊自身攻撃の效果ニ依ラザルハカクナルガ如ク情況ニシテ徒に肉迫攻撃の精度を有進スルに非ズ。艦隊の優劣未だ敵の新式巡洋艦以上部隊射撃ハ我々未だ肉迫セザルニ全滅の何等戦果ヲ敵カシテ名ヲ成アレルノミナリ

二 敵巡洋艦の夜間射撃精度ハ慮探肉射撃の精度ニ比シテ有スルモノト推定セザレバ約五千射撃の初弾必中爾後連続有効弾ヲ得ニ射撃ハ初弾精度散布界射間隔等著シク劣勢ナリ

三 今次夜戦の經驗ニ鑑ミ敵ハ五千乃至七千同航射撃於テ之を直に進スルニ其當り優速ヲ以テスルハ心ニ之ニ二千米以内ニ肉迫セザルニ中ハ好機アリテ亦敵連射の威力射撃のメニ此好機ニ射撃ヲ心要トス

十一日雨後并勢変化、状況、洞窟、其時機、駆逐艦、戦  
 力、発揮、好機、トルヤ、著眼、要アリト、伺  
 (C) 我、駆逐艦、現、装備、ラ、以、テ、敵、新、式、巡、洋、艦、ニ、對、ス、ル、ハ、生  
 ト、三、魚、雷、力、活、用、ニ、俟、テ、外、テ、現、装、備、次、発、装、填、装、置  
 ハ、層、速、速、確、美、ル、モ、ニ、改、善、ラ、要、ス、  
 現、在、如、キ、装、置、ト、魚、雷、量、ヲ、以、テ、駆、逐、艦、ノ、教、養、ニ、依、ル、夜、戦  
 決、行、場、合、ハ、及、再、復、艦、隊、整、備、ニ、依、ル、戦、果、積、上、極、メ、テ、遺、憾、ノ、点、  
 多、ク、夜、戦、効、果、不、徹、底、ト、テ、敵、勢、力、ノ、漸、滅、ニ、甘、シ、テ、ル、ヲ、得、テ、ル  
 ニ、ト、テ、  
 今、次、夜、戦、ニ、モ、各、風、涼、風、ニ、三、次、発、装、装、置、ニ、長、特、間、ヲ、要、シ、再  
 三、戦、場、ニ、突、キ、出、場、合、ハ、既、ニ、残、敵、ヲ、逸、シ、敵、徹、底、的、打、撃、ヲ、得、  
 得、テ、結、果、ト、サ、レ、リ、

(D) 次發裝類故障狀況概方左、如シ

一 故障箇所

1. 一番聯管一番管

2. 二番聯管四番管

二 故障狀況並ニ處置

1. 一番聯管發射後直ニ二番管裝填位置ニニ旋回固  
 定ニ裝填ヲ開始セルニ二番管ハ順調ニ裝填セルモ一番管ハ  
 頭部發射管ニ入リタル處ニテ摩擦擦車空転ニ裝填來  
 ズ裝填索、張合セ及加圧車、調整ヲ行フモ尚魚雷前  
 進セズ依ッテ頭部前端ニシツカレヨ取付ケ之ヲ併用  
 裝填ヲ行ハルニ魚雷機械室附近迄裝填時前ニ魚雷  
 前進セズ此處ニ於テ發射管ニ不審ヲ抱キ箱内ヲ檢ス  
 ルニ管外深度調定裝置ハ嵌、位置ニアルヲ發見セリ  
 魚雷ラハシツカレシ調定裝置、復級ヲ試ルニ調定鉗  
 屈曲ニ脱出不能ニ對シ番管裝填ヲ断念シ魚雷ヲ

三故障原因並ニ注意ヲ要スル點

按テシ三四番管、裝填ヲ行フ所要時間約三十分  
 二番管發射後道ニ裝填位置ニ旋回固定シ裝  
 填開始セルニ二番管順調ニ裝填ニ番管途中摩  
 擦車、空転アリタルモ其、後裝填了セリ四番管後  
 一米附近ニテ裝填索ニヨリ生ジ裝填不能ト  
 ナレリ依ツテヨシレヨ度ヌ如ク切替滑車ヲ回転セ  
 シ處同滑車、回環、所ニテ回轉セズ裝填索張合セ  
 用螺錐ト共ニ回轉(暗夜、無灯火ニテ此事氣付カス)セ  
 シ爲螺錐螺脱シ分離セリ(此時隣ニ回轉鬼ニ依リ  
 除カニ裝填シツアリタル爲裝填索、ミ巻込ミ爾後  
 裝填ニ不當、時間ヲ消費セリ)依テ三番管、滑車及調  
 整螺桿ヲ取付テ裝填準備ヲスルト共ニ頭部「眼環」ヲ  
 取付ケ「ツカ」ニテ裝填スル如ク同時ニ準備シタルモ裝填  
 鬼ニ依リモ準備早ク之ニテ裝填了セリ

- (1) 一聯一番管の装填索空転  
 (イ) 現装置ニテハ摩擦車ト装填索ト摩擦抵抗不足  
 ナリ
- (2) 高速力航行及至密使用現状ニ依リ發射管装  
 填台トニ軸線ノ変化ヲ来ス傾向アリ  
 (イ) 發射機員ノ夜間装填ノ不測レタリシ爲  
 (ニ) 發射管ノ是形上ノ防弾装置ハ兩重ナラサルコト  
 (ホ) 魚雷格納所上ニハ成可ク重量物ヲ載セサルコト  
 (ヘ) 二聯四番管装填索ノヨシト  
 (イ) 装填索換裝後使用回数少ナク(全装填行ヒ居ルガ  
 装填索ノ燃リ充分ニ取レ居ラス  
 (ロ) 登間ナル時ハ簡單ニ處理セサルモトト思考ス  
 (ハ) 滑車及装填索張合セ用螺釘巡洋艦使用ノモノ  
 如ク固難セサルモト改造スル必要アリ
- (3) 一聯深度測定装置

- (3) 發射後發射機員が次發裝填爲指外シタル時誤リテ正入セシモノ知シ
- (4) A把手ニ依ル調定錐板正シテ不充分ニ付左記推定ス
  - (1) 發射前深度改調後調定錐板正シテ不充分
  - (2) A把手發條力不足ニ依リ調定錐板一パイ被シテ位置ヨリ直ガニ正入スル時ハA把手其要ヲナガサルモアリ故障原因探察中此種ノモラルヲ發見ス
- (5) 發射機指内行動ニ發射管作動部ニ障ラサル様習慣的ナラシムルヲ要ス

③ 機関係

一 戰鬥前不要動力、電源ハ断トナリ居ルヤ、必ず確ムルヲ要ス

前部揚錨機室被彈ニ依リ浸水、際該開閉器(前部配電室ニ在リ)ハ接トナリ居レリ、之ハ出港時揚錨機使用終リニ際

シ開閉器ヲ接、促トナシ居リタルモノニシテ戰鬥時ハ勿論平時ニ於テモ不要電源ヲ断トナスハ充分承知シ居リナカク之ヲ確メザリシニ依ルモノナリ

此、為揚錨機用電路漏電シ「ヒューズ」(三五。A)熔断セザリシ為、併列運転中、一、三、号弁電機(一、二、三号弁電機「ヒューズ」五五トVA)電流計電圧計急昇シ検漏灯ハ全漏電ヲ示シ一、二、号弁電機ノ繼電器作動シ自動遮断器断トナリ三、号弁電機ハ一時全負荷状態トナルモ揚錨機「ヒューズ」熔断スルニ及ビ常態ニ復シ一、二、号弁電機ト併列運転セリ其間約三分ヲ要シタルモ此ノ際特ニ何

等影響音ヲ與ヘザリシト雖モ時ニ依リテハ他科ニ及ス影響音ハ甚大  
トナルベク不要動地電源ハ必ず断トナシ置クヲ要ス

二、艦橋ヨリ機関科ニ対スル情況並ニ被害ノ通報ヲ適切ナラズルヲ要ス

艦橋ヨリ前部浸水ノ通報が遅レル者モ電機機部ニ於テハ電路被害

ニ対スル判断並ニ處置ニ時間ヲ要セリ(探知員派遣ニ依リテ知レリ)

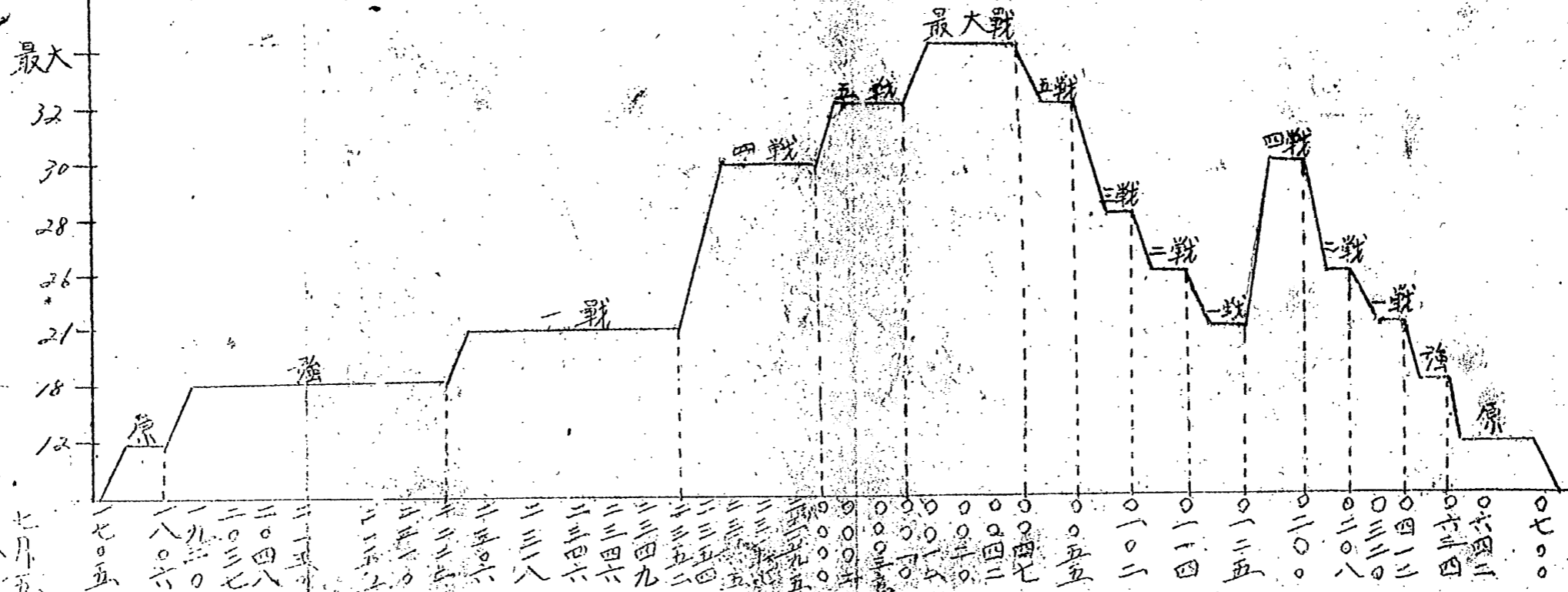
其他狀況通報ハ運転指揮上並ニ戦斗力奔揮上大ナル影響音

ヲ與フルハ言ヲ俟タザル處ニシテ適時適切ナル情況通報ハ極メテ

緊要ナルモノト認ム



# 昭和十一年七月五六日「夕云湾」夜戦戦闘経過圖(谷風)



七月五日  
八、四時、敵機、通報ナシ

一七〇五  
一八〇六  
一九三〇  
二〇三七  
二一三〇  
二二二〇  
二三二〇  
二四二〇  
二五二〇  
二六二〇  
二七二〇  
二八二〇  
二九二〇  
三〇二〇  
三一二〇  
三二二〇  
三三二〇  
三四二〇  
三五二〇  
三六二〇  
三七二〇  
三八二〇  
三九二〇  
四〇二〇  
四一二〇  
四二二〇  
四三二〇  
四四二〇  
四五二〇  
四六二〇  
四七二〇  
四八二〇  
四九二〇  
五〇二〇  
五一二〇  
五二二〇  
五三二〇  
五四二〇  
五五二〇  
五六二〇  
五七二〇  
五八二〇  
五九二〇  
六〇二〇  
六一二〇  
六二二〇  
六三二〇  
六四二〇  
六五二〇  
六六二〇  
六七二〇  
六八二〇  
六九二〇  
七〇二〇

シヨートランドに着  
諸官系通達中区分電路通常配電  
湾口ニ入ッ(シヨートランド)

艦内哨戒隊ヲ三配備  
諸官系警戒区分電路警戒配電

配置ニ就ケ

(打方止メ)  
煙囪弁止メ  
(右打方始メ新月火災)

(前甲板ニ敵弾命中)  
(敵巡洋艦ニ見失フ)  
(敵巡洋艦ニ見失フ)  
煤煙幕展開  
今宵の夜

高麗隊見ユ

(右魚雷戦目航)  
配置ニ就ケ(右砲戦)  
左砲戦ニ就ケ(左砲戦)  
今ヨリ反転スル  
左正横ニ水上艦艇ヲ見テ探知ス

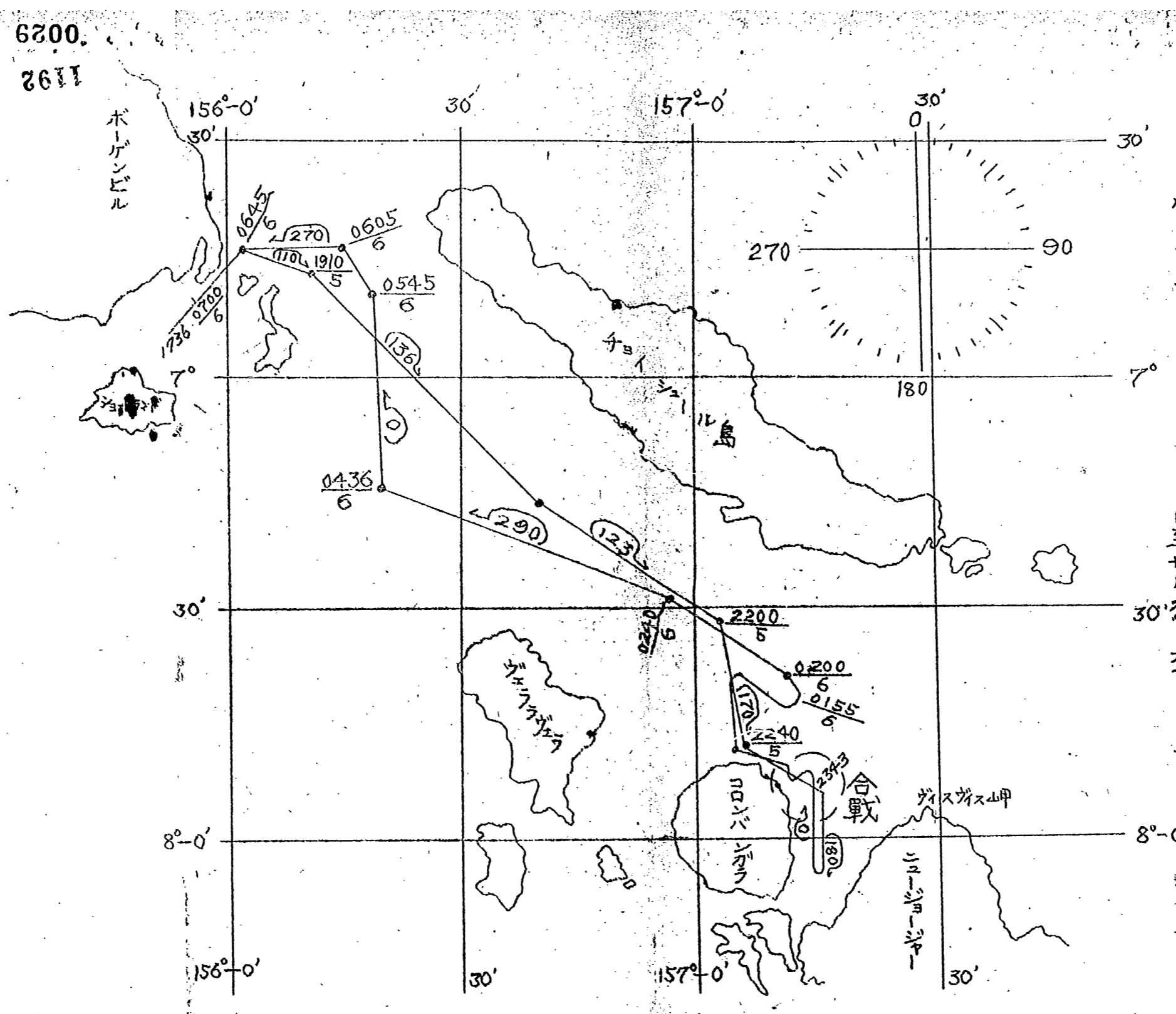
今夜シヨートランドが右見テ南下ス  
艦内哨戒隊ヲ一配備  
諸官系警戒区分電路警戒配電

全力即時待機完成  
砲戦ニ備フ用意  
今宵湾口ヲ出リ

諸官系警戒区分電路警戒配電  
シヨートランド出帆  
二二〇以後全力即時待機  
二二〇以後全力即時待機

三燃料費算  
一三〇  
二二〇  
三〇二  
四〇一  
五〇一  
六〇一  
七〇一  
八〇一  
九〇一  
一〇〇一  
一一〇一  
一二〇一  
一三〇一  
一四〇一  
一五〇一  
一六〇一  
一七〇一  
一八〇一  
一九〇一  
二〇〇一  
二一〇一  
二二〇一  
二三〇一  
二四〇一  
二五〇一  
二六〇一  
二七〇一  
二八〇一  
二九〇一  
三〇〇一  
三一〇一  
三二〇一  
三三〇一  
三四〇一  
三五〇一  
三六〇一  
三七〇一  
三八〇一  
三九〇一  
四〇〇一  
四一〇一  
四二〇一  
四三〇一  
四四〇一  
四五〇一  
四六〇一  
四七〇一  
四八〇一  
四九〇一  
五〇〇一  
五一〇一  
五二〇一  
五三〇一  
五四〇一  
五五〇一  
五六〇一  
五七〇一  
五八〇一  
五九〇一  
六〇〇一  
六一〇一  
六二〇一  
六三〇一  
六四〇一  
六五〇一  
六六〇一  
六七〇一  
六八〇一  
六九〇一  
七〇〇一

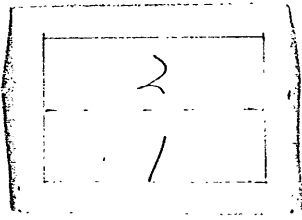

一、三、一、四、八



附圖(海圖第八號)向度  
 驅逐艦谷風行動圖  
 自七月五日一七三六  
 至七月六日一七三六

6200.  
 2611

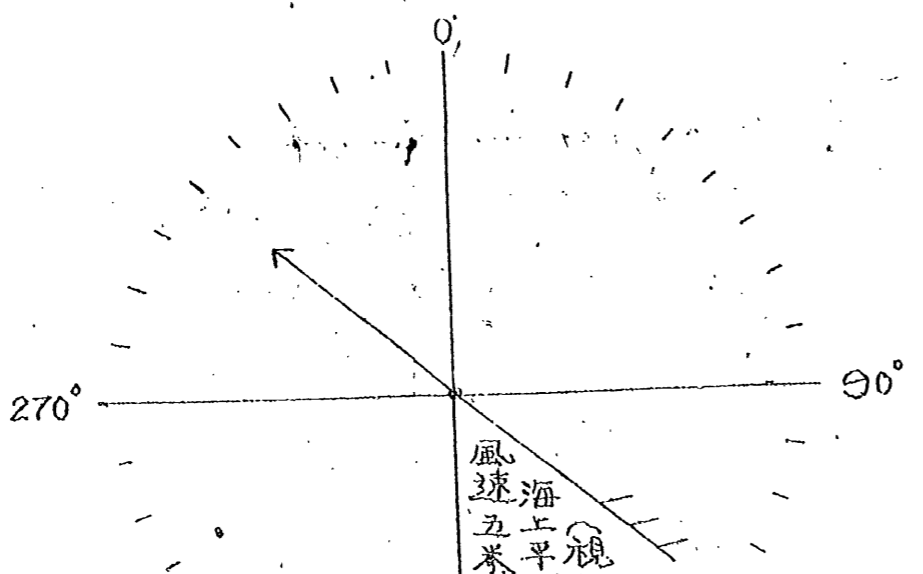
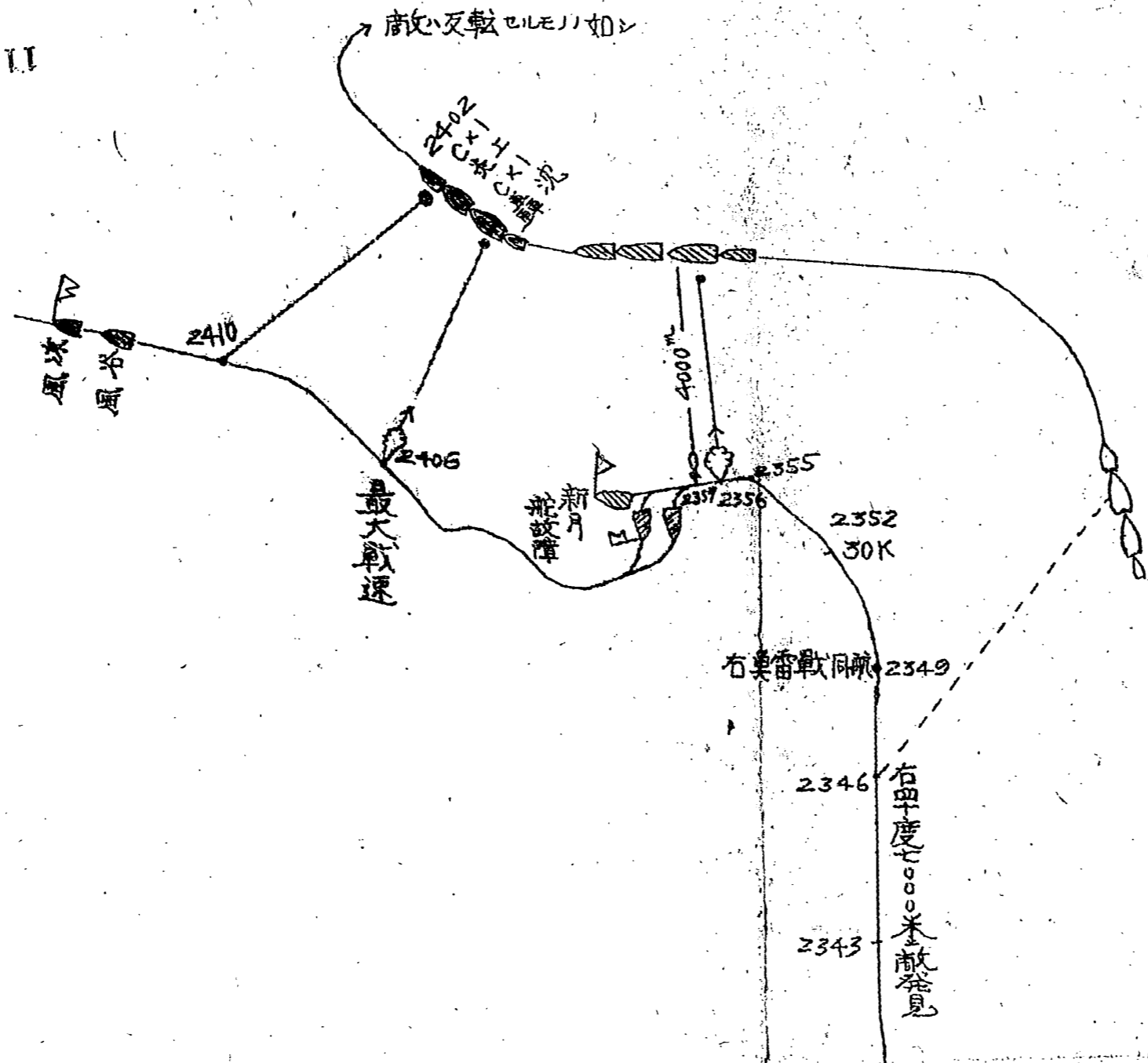
# 分割撮影ターゲット

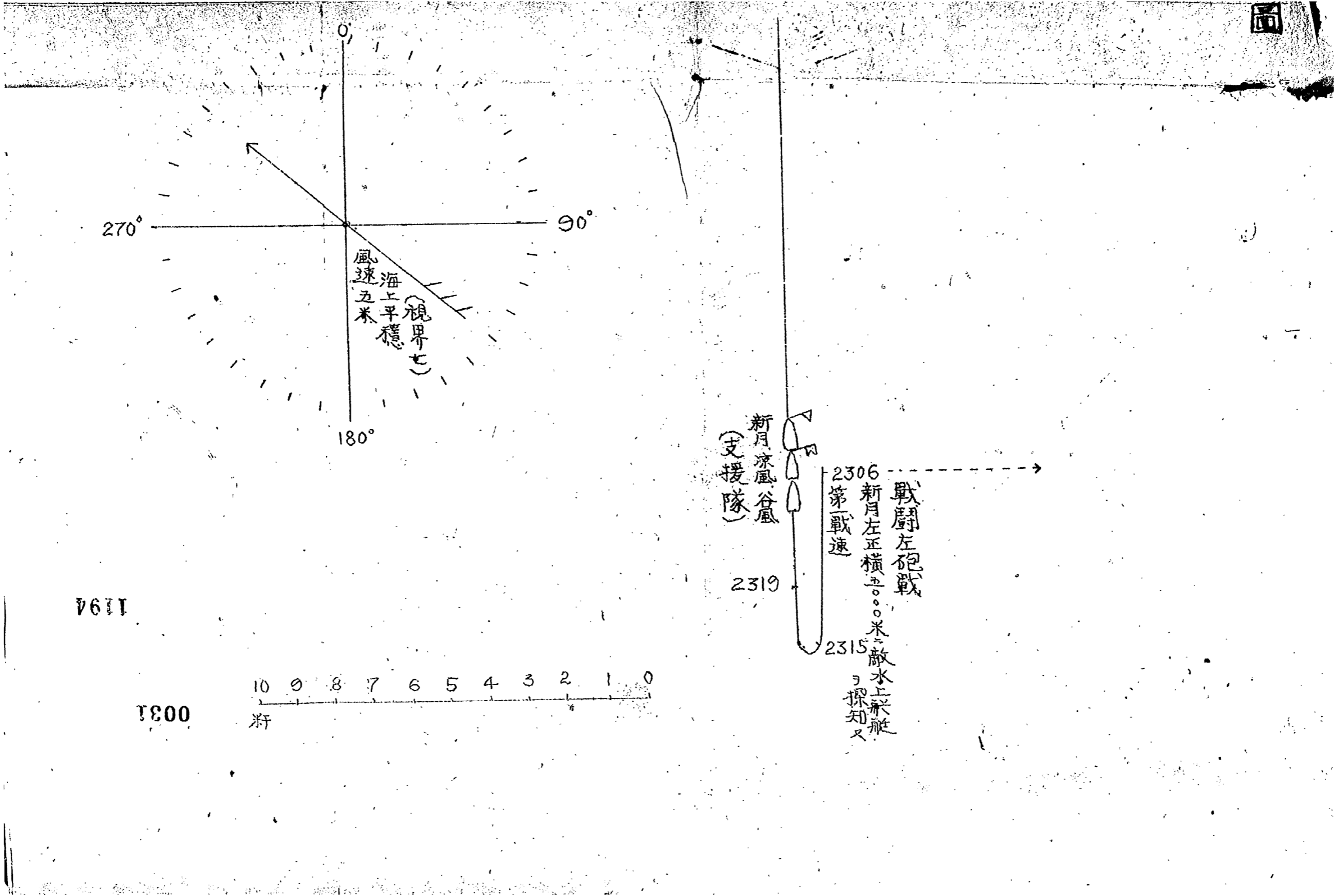
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上の尺巻
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 10月 21日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

昭和十八年七月五、六日ラニ湾沖夜戦駆逐艦谷風合戦圖

凡例

- 射撃開始
- 射撃中止
- 最初位置
- 中間位置
- 最後位置





(1) 天象

日	時	時刻	天候	風向	風速	気圧	視界	海上模様	其他
六日	〇四〇〇								
七日	二四〇〇								
八日	二〇〇〇		bc	SF	ノ	七六九	ノ	平穩	
九日						七六一	ノ		
十日						七六五	5		
十一日									
十二日									

(2) 兵器消耗調査表

兵器別	種類	消耗数量	残量	記
魚雷	九三魚雷 型 改二	八	八	
砲	三種通常弾	五四	九〇四	

(3) 燃料消費調査表

種類	日	時	消費額	残額	記
重油	五日		一一二	三九	

(4) 故障欠損調査表

故障欠損件名	原因	程度	記
...	...	...	...

1196 0033

国府 所属 職員 名簿	楊 鏞 機 用 電 動 機
水 ニ 依 ル	前 部 被 彈 密 波
能	絶 縁 不 良 ト 下 リ 使 用 不 可
調	機 測 ニ 非 波 作 業 ヲ エ ン タ ル 地
予 定	七 月 下 旬 出 立 回 航 工 廠 ニ 於 テ

別紙第一

機密増援部隊命令 第九號

昭和十八年七月五日

増援部隊指揮官 秋山輝男

増援部隊命令

一、インドバ方面ニ攻上陸セル敵ハ益兵力ヲ增強シ圖ルト  
 共ニムンダニ攻略ノ企圖ヲ以テ昨四日夜半ハイロコ島  
 方面ニ海上空力ヲ支援下ニ陸ヲ企圖セルモ友軍ノ反撃  
 ニ會ヒ撃退セラレタリ  
 二、増援部隊ハNB電令第二三三號ニ基キ萬難ヲ排シゴロ  
 ンガラ方面増援陸軍並ニ物件ヲ緊急輸送ヲ強  
 行セントス  
 三、軍隊 區 分





(一) 送隊揚格完了スルヲ察知セババンジョートランドニ回航  
 第ニ次輸送隊ヲ特令ニ依リ解列往復共ニ東航路ヲ執  
 リ第ニ次輸送隊ニ引續キ揚格爾後シヨートランドニ  
 回航ス

コバンシガラ入泊時刻ヲ六日〇。ト豫定ス  
 由支隊隊ハ第ニ次輸送隊揚格完了ヲ察知  
 セババンジョートランドニ回航ス

五會敵、揚格、處置  
 (イ) 有力ナル敵水上艦艇ニ遭遇セバ全隊結束之ヲ擊破  
 シタル後、揚格ヲ敢行スルヲ本旨トスルモ、情況許  
 ス限リ、輸送隊ハ也隊ヲ支援スル下ニ揚格ヲ実行セム  
 (ロ) 敵機觸接ニ對シテハ支援隊(第ニ次輸送隊)解列前  
 ハ第ニ次輸送隊ヲ支援隊ニ續行シ、詳勤輸送隊  
 支隊ハ圖ルモトス

0037  
0021

參考

駆逐艦 谷風 職負一覽

職名	官	氏名	特技章	記	事
駆逐艦長	中佐	前川 新一郎	高水	昭和二十年六月沖根先任參謀トシテ 沖繩ニ於テ自刃(當時大佐)	
水雷長 (先任特技)	大尉	相良 辰雄	水雷長講 習終了者	クマ湾夜戦ニテ左胸部彈片創ヲ被リ 爾後航空電波兵器関係ニ転ス。現在 生存。第二復員局人事部勤務(終戦 時少佐)	

(終)



第二復員省

00 30

21 9 3